

令和6年度「人権教育研究指定校事業」指定校事業報告書

委託先（ 兵庫県 ）

1. 調査研究のテーマ、概要

調査研究のテーマ	持続可能な共生社会の実現に向けて 主体的に取り組む生徒の育成
----------	-----------------------------------

○調査研究のテーマを設定した目的

現在、生成 AI に代表される ICT の進歩が社会を加速度的に変化させ、グローバル化や情報化が進み、予測困難な時代を迎えている。学習指導要領に「一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな社会を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする」とあるように、持続可能な共生社会を担う人材を育てるためには、自己肯定感、人権尊重の精神と協働性の醸成が課題となっている。

兵庫県では「人権教育基本方針」に基づき、「人権尊重の理念に対する理解を深め、生命の尊厳を基盤に、自他に対する肯定的な態度と共生社会の実現に主体的に取り組む実践力を育成する」ことを実践目標に掲げ、多様な価値観や今日的な人権課題の理解促進に向けた指導方法の工夫・改善を実践事項とし、各校で人権教育の推進体制の確立をめざしたカリキュラム・マネジメントに取り組んでいる。令和2年から3年以上続いた新型コロナウイルス感染症によるマスク着用や学校行事の縮小、部活動等の制限を受け、対面でのコミュニケーションに課題を抱えている生徒は少なくない。生活体験や多様な人々との交流経験の乏しさはコロナ禍以前から指摘されているが、コロナ禍以前にも増して、個別的人権課題を人権ホームルームや講演会等の特別活動や学校行事に留まらず各教科の年間指導計画に位置づけ、教育活動全体を通して取り組むことが求められている。

研究指定校（以下、指定校と記載）は平成14年度に新しい学びをめざす単位制高等学校として設立された。開校当初から探究活動を中心とした教育課程を編成し、校訓の1つに「敬愛」を掲げ「自然を敬い、自他の命を尊重し、互いを愛し認め合う心の涵養」を目標として、生徒の主体性や協働性を高める取組を実践している。また、人権教育目標として県の実践目標に基づき「①社会の一員として調和のとれた人格の育成」「②自ら考え、判断し、行動できる能力の育成」の2本の柱を掲げ、カリキュラムの軸である探究活動を中心に主体性の育成に重点を据えた人権教育を展開している。さらに、令和4年度からは持続可能な社会実現に主体的に取り組む生徒を育成するために、

探究活動の指導においてSDGsの17の目標に沿って具体的なアクションプランを作成し発表を行うなどサステナブルな社会の実現について考えさせる教育活動に取り組んでいる。

また、指定校では希望者対象にオーストラリア研修を実施し、事前・事後指導を含めて国際感覚に優れ、自他の文化を尊重する心と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、主体的に生きるための自覚を養う取組を行っている。このことにより、海外交流を通してSDGsを含めた地球的規模の課題や世界の現状について、生徒自身が、より自分事としてグローバル的視点から関心を持つ機会を提供している。現代の日本社会では、グローバル化の進展にともない、様々な民族や国籍の人々が増加している。このような状況においては、自他の文化や習慣、価値観を認め合い、共に生きる心を育成する多文化共生教育の推進が必要である。

令和5年度の生徒アンケートでは、「学校生活の中で負担に感じていることがある」と答えた生徒が53.1%と半数以上であり、その理由として人間関係と答えた生徒が22.5%いた。さらに「自分のことを大切にしてお過ごしできている」という質問に「いいえ」と答えた生徒は15.7%となっており、学習で培われる自己肯定感やコミュニケーション能力に不安を抱えている生徒が一定数存在しており、加えてSNSによる人間関係のトラブルも発生している。

このような課題に取り組むためには、生徒の自尊感情や自己肯定感を高め、共生の心を育むための取組が必要であり、本調査研究では学校教育活動全体を通して、人権教育の充実を図ると共に、SDGsに内包される人権理念の獲得をめざした探究活動と国際交流を基盤としたカリキュラムおよび個々の人権課題への指導の工夫・改善を通して、自己肯定感を高め人権意識が高揚し、持続可能な共生社会の実現に主体的に取り組む生徒の育成を目的とした研究テーマを設定した。

○調査研究の概要

総合的な探究の時間における探究活動や教科学習、国際交流や特別活動等の学校教育活動全体を通して「自他の生命や人権を尊重し、サステナビリティに根ざした共生社会の実現に向け、豊かな人間関係を構築し、主体的に行動できる生徒を育成する」ことをめざした。学習を展開する際には、体験的・協働的な活動を重視し、主体性とコミュニケーション能力の向上を図り、振り返りや学習成果の発表機会を設け、地域への発信を行った。さらに、文化多様性に気づかせ、共生社会をきずく一員としての自覚を深めるために、発表機会を設け、全校生徒に成果を還元した。また、アンケートを複数回実施し、ワークシートの分析を行うことで、生徒の意識変容等を検証した。また、授業を行う際には、人権教育を通じて育てたい資質・能力の3側面についてそれぞれに評価を行った。

2. 基本情報

研究指定校の概要

○学校名

兵庫県立三田祥雲館高等学校

○これまでの研究指定等の状況

なし

○学級数

18学級

○児童生徒数

706人（令和6年4月8日現在）

○URL

<https://dmzcms.hyogo-c.ed.jp/shoun-hs/NC3/>

○指定理由

指定校は、開校当初から探究活動を通して、主体性や他者理解につながる協働的なグループ活動等を行うとともに、学習した内容をまとめ、発信していくことで自己肯定感を向上させる取組を続けており、兵庫県内でも先進的なカリキュラムを開発している。指定校のグラデュエーションポリシー（育成をめざす資質・能力に関する方針）には「自分を認め、相手を認める思いやりの心を育み、命を大切にし、人権を尊重する態度を養う。」「科学的リテラシーと課題解決能力の向上をめざし、社会貢献できる人材を育成する。」を掲げており、自他の生命や人権を尊重し、共生社会の実現に取り組む主体的な生徒の育成をめざしている。

指定校では、文部科学省スーパーサイエンスハイスクール指定を受け、探究活動を充実させ、課題研究や自主研究の成果発表等を通して、生徒の主体性や協働性を一層高める取組を実践している。ふるさと貢献・活性化事業では、地域活性化のため三田市と連携して科学教室の実施や近隣幼稚園、特別支援学校との交流を行い、さらに学校独自で海外研修をはじめとする国際交流事業を実施するなど、多様な人との関わりの中で、SDGsを基盤として生徒自身が自ら社会課題を発見し、主体的に解決できるようカリキュラムを改善している。一方、対人コミュニケーションへの不安や自己肯定感の低い生徒もいることが報告されており、さらなる指導方法の改善が課題となっていることから、これまでの探究活動の取組を素地として、各人権課題を通して自他を尊重する態度や共生社会の実現に主体的に取り組む生徒の育成を目的とする研究視点を加味したカリキュラム改善を行うことは、指定校における人権教育の発展につながると考えた。ま

た、探究学習の手法を用いての実践研究は、今後の域内の他校におけるカリキュラム開発の上でも大変有益なものであると考える。

3. 取り組んだ人権課題について

取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題1つに◎をつけること。）※人権教育研究推進事業公募要領（別紙）「2. 事業の内容」を必ず確認すること。

① 子供	○
② 女性	
③ 高齢者	
④ 障害者	○
⑤ <u>同和問題</u>	
⑥ <u>アイヌの人々</u>	
⑦ <u>外国人</u>	◎
⑧- 1 HIV 感染者等	
⑧- 2 <u>ハンセン病患者等</u>	
⑨ 刑を終えて出所した人	
⑩ 犯罪被害者等	
⑪ インターネットによる人権侵害	○
⑫ 北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬ 性的指向、性自認	
⑭ その他（ ）	

4. 調査研究の内容等

○調査研究の内容

本研究では、探究活動により SDGs の基底にある人権的視点を理解し、持続可能な共生社会の実現に主体的に取り組む態度を育成することを目的とした。このため探究活動で扱う人権課題は多岐にわたるが、指定校では特に教科学習で重点的に取り扱う「子供」「障害者」「外国人」「インターネットによる人権侵害」のテーマについて、学校教育活動全体で学習を進め、以下のような実践研究を行った。

○実施方法

年度当初に SDGs や人権意識について生徒アンケートをし、実態把握を行った。それをもとに、人権教育委員会（専門部 4 人、各年次団 1 人）、探究活動担当者会（専門部 8 人、各年次団 2 人名）、国際交流委員会（担当 3 人、各年次団 1 人）を開き、年間計画を策定した。SDGs の実現に向けての社会課題については、総合的な探究の時間で SDGs の目標における人権について学習し、課題解決のアクションプランを作成して発表を行った。また、図書室に人権ブースを設置し、多数の書籍を配架した人権教育に特化したコーナーを設け、これまでに培った探究活動のプロセスを活用し、生徒が主体的に個別の人権課題について知ったり、自身の考えと比較したり、考えを深めたりする学習活動につなげた。さらに各人権課題については、以下のような方法で実施した。

「子供」について

近隣の学校園との交流を実施し、お互いを認め合い、共感する心を育むとともに、異年齢や異校種における「子供」の人権に関わる課題を発見したり、協同的な課題解決に資する活動を行ったりし、「子供」の人権課題について体験的に、実感を伴った理解を深める機会とした。その際、事前・事後学習の充実を図り、共生社会実現のために自分に何ができるのか考えさせた。

「障害者」について

1 年次生の全生徒を対象とし、点訳や手話などを家庭科の授業で実施した。また、生徒集会等や平素の学校生活を通して、お互いを認め合う態度を育成した。さらに、学校設定科目及び特別活動において近隣の特別支援学校の生徒との交流の機会を設けたことで、共生社会に参画する態度を育む一助となった。また、全校生徒を対象に人権教育講演会を実施し、共生社会の実現に向け、生徒自身の理解を深める機会とした。さらに、探究活動の研究成果をもとに、三田市高校生議会に参加し、高齢者を含むノーマライゼーションの在り方について提案し、社会モデルとしての市の在り方を高校生なりの視点で市長に提言を行った。

「外国人」について

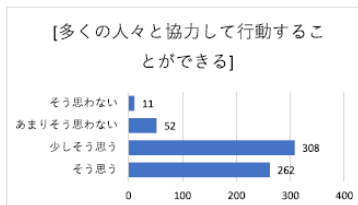
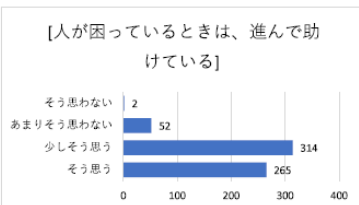
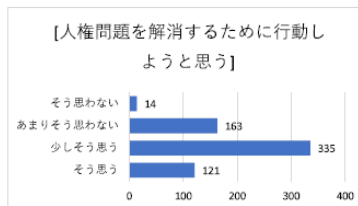
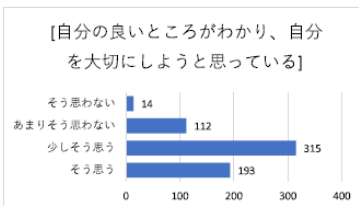
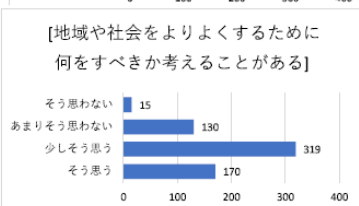
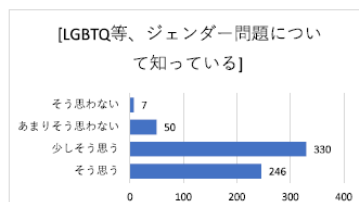
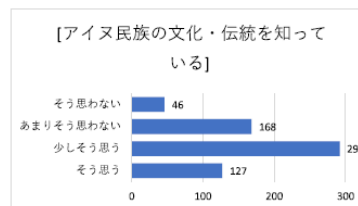
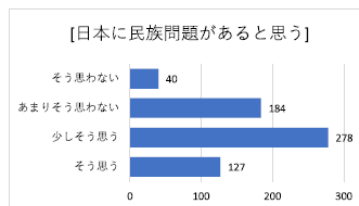
希望者を対象として夏季休業中に西オーストラリア研修を実施した。西オーストラリア州立大学での語学研修、高校交流、SDGs インタビュー、世界遺産での歴史学習などを通して、多様性を尊重しながらグローバル社会で生きていく考え方を育成することにつながった。研修参加者には全校生徒や保護者の前で発表する機会を設ける。また、外部講師を招いての多文化共生講座や日本文化学習会を開催し、多文化共生について理解を深める。また、海外の高校生とのオンライン交流を行い、多文化共生を考える機会を多く設定し、自他の人権を尊重する実践行動に結びつける一助とした。

「インターネットによる人権侵害」について

生徒会が令和2年度に作成したスマホ使用7か条の見直しとともに外部講師によるSNS講演会の開催や公民科、情報科とも連携し、さらなる啓発を図った。

○検証・評価・改善・普及

今年度の始めと終わり（6月，1月）に、全校生徒に対して人権意識調査を行い、14の項目についてアンケートを実施した。国際交流（短期留学、海外研修、オンライン交流など）に参加した生徒に関しては、外国人に関する項目について、比較的興味関心は高かったが、本研究を通して意識がより一層高まった。特に交流事業を通じて直接いろいろな人と関わったことによって、様々な考えや価値観に触れる事ができ、それらを尊重する意識が強まったと分析している。アンケートでは、「外国人への認識・理解を深めようとしている」の設問においてやや改善が見られた。

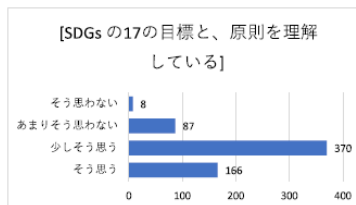
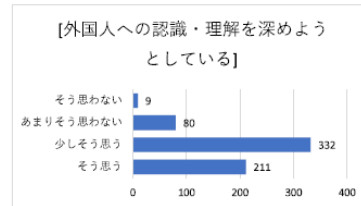
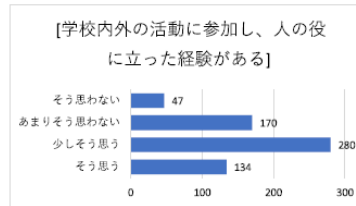


人権講演会では、パリパラリンピックに出場された車いす陸上競技選手の北浦氏に講演していただき、パラスポーツを通じて障害者との共生について考えた。今までとは違った視点で障害者問題を考えることができ、理解が深まった。また、各年次毎に人権講演会を行った。テーマは各年次によって違いはあったが（1年次：LGBTQに関する問題、2年次：女性の社会参画、3年次：ハラスメント）、どの講演会でも『自分自身を認め大切にする』という内容を入れてもらった。本校生徒は自己肯定感が低い生徒や、

自分自身に自信が持てない生徒が見受けられるが、講演会の感想をしてみると、

『ありのままの自分全てが好きになれるようになりたい』『他の人のことも自分のことも大事にできる人になりたい』といった意見がみられ、自尊感情の向上につながった。また、アンケートにおいても「様々な価値観を尊重しようとする態度を身に着けている」の設問において意識の向上が見られた。

インターネットやSNSが普及している現在において、色々な情報を収集する事は容易に行える。しかし、それらの情報は信憑性に欠けていたり、さまざまな危険が隠されたりしている事を生徒自身が理解できるように取組を進めた。アンケートでは、「様々な考えを持つ人々と暮らしていることを理解している」の設問において意識の向上が見られた。今年度行った様々な事業を通じて、実際に自分自身が経験をしたり、当事者の人々から直接話を聞いたりした活動が、生徒自身の意識の向上に大きな影響を与えたことが伺えた。『百聞は一見に如かず』という言葉もあるように、今後も、生徒自身が実際に体験する教育の実践を心がけていき、多種多様な人たちとの共生社会の実現に向けた意識の向上を図り続けていく必要がある。

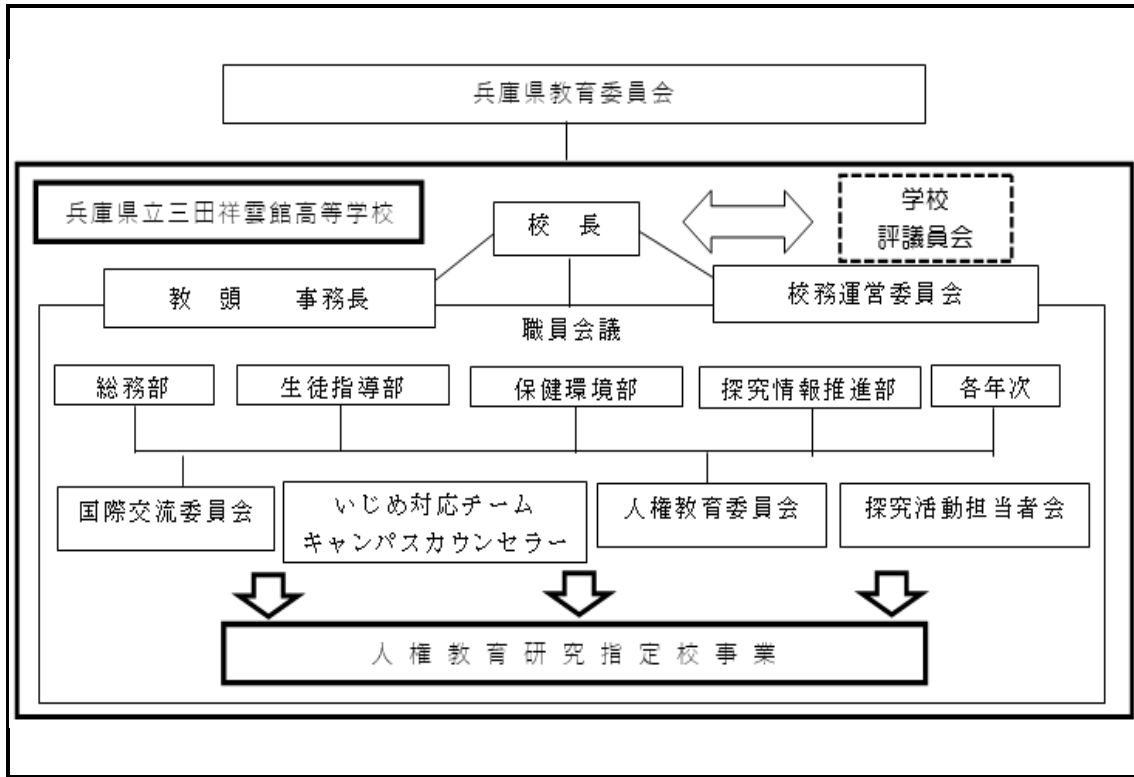


5. 人権教育にかかる年間計画

令和6年度 人権教育年間指導計画書

月	推進委員会	研修会(校内・校外)	学校行事	人権HR	教科・探究・その他
4月		第1回 要配慮生徒についての研修会(保健環境部主催)			
5月	第1回推進委員会 (基本方針と重点目標検討)	第2回 要配慮生徒についての研修会(保健環境部主催) 第1回カウンセリングマインド研修会			
6月		第1回 三田市人権を考える会高校部会	祥雲祭		
7月	第2回推進委員会 (人権講演会実施計画・人権HR学習指導案検討)			1年次第1回人権HR 3年次第1回人権HR	
8月		三田牽せプロジェクト 第2回 三田市人権を考える会高校部会職員研修会(ゲートキーパー)延期			・オーストラリア海外研修 ・高校生ふるさと貢献事業(学園夏祭り)
9月	第3回推進委員会(人権講演会実施に向けて・人権HR審議)		祥雲探究祭		
10月		人権教育訪問指導		1年次第2回人権HR 2年次第1・2回人権HR 3年次第2回人権HR	ふれあい育児体験
11月			人権教育講演会		・ふれあい育児体験 ・上野ヶ原特別支援学校との合同芋ほり(園芸入門)
12月		三田市人権を考える市民のつどい			
1月					
2月	第4回推進委員会(本年度における人権教育の総括)	第3回 三田市人権を考える会高校部会			
3月			下旬 合格者およびその保護者対象の情報モラル講演会(生徒指導)		

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）



○関連資料

【R6 人権 HR 指導案】

人権 HR 学習指導案

- 1 日 時 2024年10月16日(水)第2限 9:45～10:35
- 2 場 所 2年次各クラスHR教室
- 3 対 象 2年次生徒全クラス
- 4 主 題 マジョリティの「特権」を考える～人権課題を自分事として考えるために～
- 5 本時の指導目標
- ・人権課題が生じる原因として、マジョリティのもつ「特権」があることに気づくこと
 - ・複数のテーマについて話し合うことによって、人権課題のつながりに気づくこと
- 6 準備物
- 7 本時の展開

	学習活動	備考
導 入	<p>■はじめに</p> <p>Q:(3人の子供が野球観戦している絵をみて)A・Bのどちらが「公平」だと思いますか?</p> <p>○今日のポイントを確認</p> <p>①身長の高い/低いは、努力すればどうにかなるというわけではない。</p> <p>②たまたま背が高い人は、不自由なく観戦できる。</p> <p>③同じように(偶然)両足があったら、目が見えたら、不自由なく生活できるように社会は設計されている。</p> <p>④今日は、マイノリティ(権力をあまり持っていない人)よりも、マジョリティ(より多くの権力を持っている人)の「特権」について考え、さまざまな人権課題を自分事として考えるきっかけにしましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最初にワークシートを配布する。 ・資料の図を参照 (ワークシート裏面に同図を添付) ・周りで1分程度話合う。 ・2～3人に答えさせてもよい。 <p>・ワークシートに同内容を記載。</p>
展 開	<p>■エキスパート活動(10分程度)</p> <p><テーマ①> ジェンダーギャップはなぜ埋まらないのか</p> <p><テーマ②> 努力すれば誰でも目標を達成できるのか</p> <p><テーマ③> 私たちは「障害者」をどのように見つめているのか</p> <p>■クロストーク(10分)</p> <p>①エキスパート活動で考えたことを各班で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3～4人組のグループを作成。 ・グループの代表は資料を受け取る ・新聞記事、書籍の引用、ポスターなどから発問内容について個人で考える。 <p>※テーマ③のみタブレットが必要</p> <p>・煮詰まっているグループには、今何をし</p>

	<p>②全体テーマの内容について話し合う。 →クロストークの内容は適宜メモしておくように指示。</p> <p>■発表（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロストークの内容について全体発表する。 ・話し合った内容や気づいたことについて発表。 	<p>ているか、どのような話し合いをしているか、など声掛けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループ1分程度。 ・（時間があれば）他のグループに質問させたり、もう一度説明させ直させたりするなど。
ま と め	<p>■まとめ</p> <p>全体テーマについて、自分の考えを整理し、ワークシートに記入する。</p> <p>→記入後、ワークシートを回収する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「特権」

8 参考資料一覧

キム・ジヘ（尹怡景訳）『差別はたいてい悪意のない人がする——見えない排除に気づくための10章』大月書店、2021年。

東京大学発教育支援コンソーシアム推進機構「協調学習 授業デザインハンドブック 第3版——知識構成型ジグソー法を用いた授業づくり——」（2019）（[教育環境デザイン研究所 協調学習 授業デザインハンドブック 第3版 \(ni-coref.or.jp\)](https://www.edd.ac.jp/research/education-design-research/)）

出口真紀子「「多様性」重視の今、学級経営にも「マジョリティ特権」の視点が重要と言える訳——権力に近い人ほど気づきにくい「構造的差別」」（<https://toyokeizai.net/articles/-/755154>）

一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ一同（佐藤文香監修）『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた——あなたがあなたらしくいられるための29問』明石書店、2019年。

兵庫県教育委員会『HUMAN RIGHTS - いま 私がひらく 未来 -』（令和2年度改訂版）

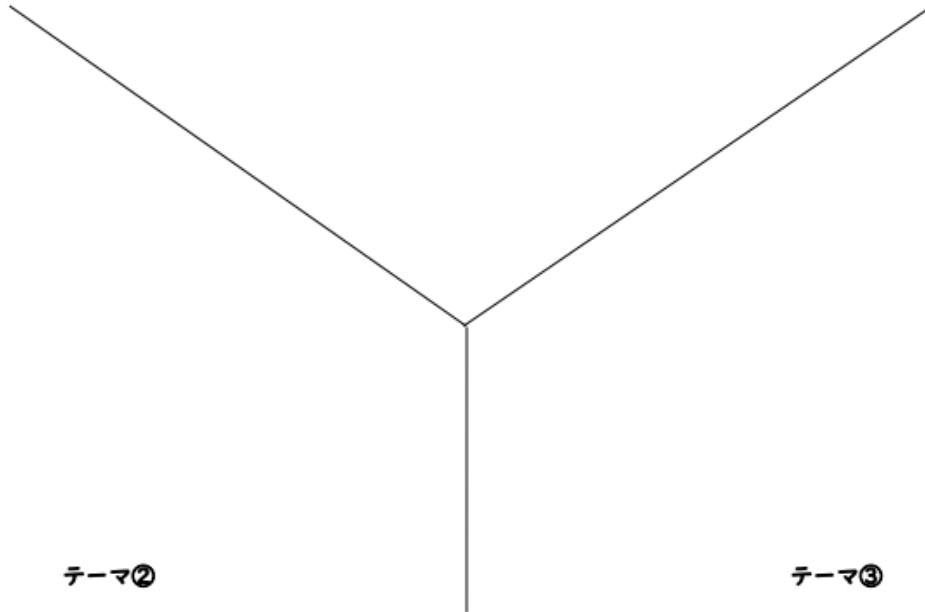
<Key word>

「特権」(Privilege)は、ある社会集団に属していることで労なくして得る優位性、と定義される。ポイントは「労なくして得る」で、努力の成果ではなく、たまたま生まれた社会集団に属することで、自動的に受けられる恩恵のことである。

【1】クロストーク・メモ

- ★テーマごとに重要だと思ったことを共有しよう。
- ★テーマを超えて共通することがないか、話し合いの中で挙げてみよう。
- ★自分たちが持っているかもしれない「特権」について具体的に挙げてみよう。

テーマ①

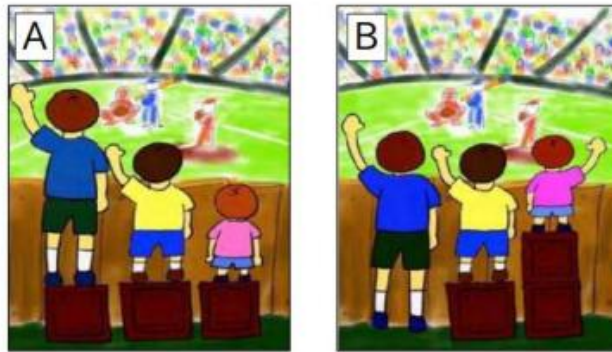


【2】まとめ：話し合いや発表を受けて、自分の考えをまとめてみよう。

組	番	名前
---	---	----

○ 平等と公平（「合理的配慮」(*右ページ「キーワード」参照)）

3人の子どもが野球観戦に来ています。機会を保障するための台の使い方として、図 A と図 B のどちらが公平でしょうか。また、公平と判断した理由についても考えてみましょう。



(出典・提供:NPO 法人 支援機器普及促進協会 <http://npo-atds.org/>、Interaction Institute for Social Change)

〈今日のポイント〉

- ①身長の高い／低い、努力すればどうにかなるというわけではない。
- ②たまたま背が高い人は、不自由なく観戦できる。
- ③同じように（偶然）両足があったら、目が見えたら、不自由なく生活できるように私たちの社会は設計されている。
- ④今日は、マイノリティ（権力をあまり持っていない人）よりも、マジョリティ（より多くの権力を持っている人）の「特権」について考え、さまざまな人権課題を自分事として考えるきっかけにしましょう。

令和6年度オーストラリア研修

実施要項

1. 目的

- (1) 本県と西オーストラリア州の友好関係を踏まえ、現地での研修を通して相互理解を深めるとともに、自他の文化を尊重する態度を育成し、国際社会に主体的に生きるための自覚と資質を養う。
- (2) 実践的な英語運用能力を向上させることを通して、異なる文化的・言語的背景を持つ人々と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を涵養する。

2. 期間 令和6年7月23日(火)~8月3日(土)(11泊12日 ※機中泊含む)

3. 実施場所 西オーストラリア州立大学英語教育センターCELT (西オーストラリア州/パース市)

4. 研修内容

- (1) UWA 語学センターCELT にて現地担当者による文化・語学・科学研修
- (2) 校外研修 (Caversham Wildlife Park)
- (3) 地校交流 (Butler College, John Forrest Secondly College)

5. 参加者 本校1,2年次生徒20名・引率教員2名(田中、綿貫)

6. 費用 502,500円

7. 現地本部 引率者宿舎 Comfort Inn & Suites Goodearth Perth

8. 委託旅行業者 JTB

利用航空会社 シンガポール航空(シンガポール経由)

9. 研修日程

日次	月日(曜)	地名	現地時刻	実施内容	宿泊
1	7/23(火)	関西空港集合 関西空港発 SQ619 シンガポール着 シンガポール発 SQ215 パース空港到着 ホテル	8:30 10:55 16:40 18:45 23:55	各自関空へ 空路、シンガポール経由パースへ 旅行社手配バスにてホテルへ (Comfort Inn & Suites Goodearth Perth)	ホテル
2	7/24(水)	ホテル UWA (Claremont) UWA(Crawley)	9:00 10:00 11:00 13:00 16:00	ホテル出発 開講式 オリエンテーション Crawley キャンパスへ移動(バス) キャンパス探索アクティビティ ホストファミリー迎え	ホーム ステイ
3	7/25(木)	UWA (Claremont)	9:00- 12:00 13:00- 14:55	午前:語学研修(Australian Culture / Critical Thinking) 午後:語学研修(同内容)	ホーム ステイ
4	7/26(金)	UWA (Claremont) Caversham Wildlife Park	9:00- 10:45 16:00	午前:フィールドトリップ準備 (Australian Animals)等 フィールドトリップ (Caversham Wildlife Park) UWA Claremont 着・解散	ホーム ステイ
5	7/27(土)			終日ホストファミリーと過ごす	ホーム ステイ
6	7/28(日)			終日ホストファミリーと過ごす	ホーム ステイ
7	7/29(月)	UWA (Claremont)	9:00- 12:00 13:00- 14:55	午前:語学研修(Australian Culture / Critical Thinking) 午後:科学研修 (Honey Bees) UWA Cooperative Research Centre	ホーム ステイ
8	7/30(火)	UWA (Claremont)	9:00- 12:00 13:00- 14:55	午前:語学研修(Australian Culture / Critical Thinking) 午後:科学研修 Fantastic physics show	ホーム ステイ
9	7/31(水)	UWA (Claremont) Butler College	7:30 8:45 9:00 9:36?- 14:45 15:45	UWA Claremont 集合・バス出発 Butler College 到着 歓迎行事・プレゼンテーション 各自、バディ生徒の授業に参加 集合・写真等・バス出発 UWA Claremont 着・解散	ホーム ステイ

10	8/1(木)	UWA (Claremont) John Forrest Secondly College	7:30 8:15 8:20 8:55- 9:55 10:00- 15:00	UWA Claremont 集合・バス出発 John Forrest S.C. 到着 バディ生徒と対面 日本語クラスに集合(Exam Centre) プレゼンテーション等 各自、バディ生徒の授業に参加 集合・バス出発 UWA Claremont 着・解散	ホーム ステイ
11	8/2(金)	UWA (Claremont) パース空港	9:00- 12:00 13:00- 13:55 14:00- 14:55 21:00	午前:語学研修(Australian Culture / Critical Thinking) 午後:語学研修(＃) 閉講式・修了証贈呈 解散 ホストファミリーと夕食 UWA Claremont へ集合(全荷物) 旅行社手配バスにて空港へ	機中泊
12	8/3(土)	パース空港 パース発 SQ216 シンガポール着 シンガポール発 SQ620 関西国際空港到着	1:10 6:35 8:30 16:10	空路、シンガポール経由関西空港へ 関西国際空港到着 入国手続き、解団式、解散	

10. 事前研修日程

日時・場所	研修
5月23日(木)13:30-	第1回研修会
5月24日(金)15:45- 18:30-	第2回研修会 保護者説明会
6月21日(金)15:45-	第3回研修会
7月9日(火)13:30-	第4回研修会
7月18日(木)13:30-	第5回研修会
7月19日(金)18:00-	結団式(生徒・保護者)

11. 事後研修日程

8月7日(水)午前	事後研修会①
8月28日(水)午前	事後研修会② ※台風接近予報のため中止
8月29日(木)	全校集会 (参加2年次生徒による発表)
8月30日(金)17:00-	報告会(生徒・保護者) 台風接近予報のため中止
9月27日(金)	探究祭 (参加1年次生徒による発表)

研修を終えて(参加生徒による全校生徒への共有)

全校集会での発表スライド

令和6年度オーストラリア研修 研修報告



UWA語学での学習



7/25,29,30,8/2

研修4日目 7月26日
Caversham Wildlife Park



研修7,8日目 7月29,30日
UWA



Butler College



John Forrest



発表のようす(この日の全校集会は高気温のため各教室への配信でおこなわれました)



Great experiences in Australia

Going to Australia for the study tour this summer, I made great memories. I felt cultural differences between Japan and Australia, interesting things, and more. Here, I will write about what I experienced in Australia.

When we got to Perth, it was cold. I was surprised because my breath was white. I couldn't believe it because it was so hot and humid a half a day ago in Japan.

In homes in Australia, I noticed that most houses don't have any bathtubs. There was a shower room and that's it. I thought that it was a bit cold because we usually rest our bodies in warm water in Japan.

Another difference I found is food. For breakfast I had cereal most of the time. I sometimes had toast with strawberry jam. For lunch, my host family made me a sandwich every day. And for dinner, I felt fascinated that all the family members eat at the same time but the food was quite different. We had pasta, nachos, fish and chips, and even a little homemade pizza.

My host family had three children. I spent good time with them too. They played sports like basketball and an Australian sport, netball. Talking with them and listening to their jokes and conversations was really interesting too. It was surprising that their bed time was 7 o'clock. They went to bed right after dinner!

Learning at UWA was



also a wonderful experience. We learned about the aboriginal people and Australian customs. We also learned about honey bees. On the next day we got to try some physical experiments. Figuring out the answer with friends was fun. When we did something individually, we were allowed to listen to music. That was new to us.

Going to the wildlife park was also really exciting. We got to meet many kinds of Australian animals such as koalas, wallabies, wombats, and even reptiles like snakes and lizards.

I also had fun learning with students from local schools. Taking classes with my buddy was a whole new experience. It was sometimes difficult to understand what to do but my buddy helped me a lot with many things. Eating lunch with my buddy's friends was fun too. I made a lot of new friends.

It was difficult using public transportation and walking on streets. Shopping at the market, and talking with friends and host family was a wonderful time. The 12 days I spent in Australia were so precious and I can never feel the same experience again. I am grateful for my parents and teachers, host family and all the people around me. I had a wonderful time.



also a wonderful

experience. We learned about the aboriginal people and Australian customs. We also learned about honey bees. On the next day we got to try some physical experiments. Figuring out the answer with friends was fun. When we did something individually, we were

【人権講演会写真】

